

人権啓発ネットワーク大東機関誌

第14号

ぬくもり

2019年3月(全戸配布版)

編集と発行 人権啓発ネットワーク大東
〒574-8555 大阪府大東市谷川1丁目1番1号
電話 072-870-0441 FAX072-872-2268

人権週間記念のつどい

平成30年12月7日(金) @大東市立総合文化センター



車いすダンスは、障がいのある人もない人も一緒に踊るパラリンピックの種目にもなっているスポーツです。

車いすダンスチームの代表を務める坪田建一さんは、高校生時代の同級生がバイク事故で車いす生活になったことから車いすダンス競技の普及活動等に取り組みられています。目標の一つは、障がいのある方がこれを通して収入を得られるプロのダンサーになることだとお話しされました。

ダンサーの安藤広二さんは生まれたときから、脊椎(せきつい)骨が形成不全を起こす二分脊椎症と言う病気で下半身が麻痺して3歳の頃から車いすの生活をされていました。小学校に入学する時、学校側から「車いすに対応できる設備がない」と通学を拒否されました。しかし、ご両親が、どうしても本人の希望である地元の小学校に入学させたいとの思いで、鉄で作ったスロープを設置され、入学許可が取れたそうです。でも、小学校に入ったら、階段から突き落とされるなどイジメをうけ、中学時代もイジメは無くなる事はありませんでした。辛い思いの中「目をつぶって赤信号渡ったらどうなるやろ」と本当に渡って、寸前のところで車が停車したことで命は助かったそうです。幼い時から仲の良かった友人に「イジメられてるの知っていたやろ?ほんま辛くて死のうと思っててん」と伝えると、友人は「知っていたけど怖かってん。ごめん」と、言ってくれたそうです。その友人は支援学校の教師になったと安藤さんは嬉しそうに話していました。



安藤さんの将来の夢は建築の仕事でしたが、車いすでの進学は厳しく支援学校(当時：養護学校)高等部に入り、ここで自分以外にも多くの障がい者が居ることを知り、安藤さん自身が変わられたそうです。23歳の時、車いすダンスに出会い「みんな楽しそうやな」と思いましたがなかなか自分からは参加できず隅っこで見ていたら、メンバーに「踊ってみない?」と手をひかれ踊らされました。車いすの操作には自信があった安藤さんはクルクルと回ることができ、風が気持ちよかったです。それから、車いすダンスの虜(とりこ)になりました。

イジメの暗い過去があるからこそ、お話もダンスもとても楽しさが伝わってきました。素敵なステージと心に残るトークでした。

(レポーターなっちゃん)

い い とないの生き生きサン

ここでは、大東市の人権推進につながる
取り組みを行っておられる方々や団体の紹介をさせていただきます

「一度も下を向いたことがない」クッシーさん(愛称・44歳)

2018年10月・福井しあわせ元気大会(障がい者の国体)・アーチェリー(身)大阪府代表

初参戦のクッシーさんは、頸椎(けいつい)損傷の障がい者。胸から下は動かず、手も親指・人差し指以外は感覚もない。試合会場は爽やかに晴れたが不規則な風が吹き荒れていた。強風に弓は揺れ、矢は流される。風待ちに集中力維持が難しい…。72本もの矢を撃ち終え、興奮冷めやらぬ内に応援団の元に駆けつけ「予定より100点は低かった」「ボアはもっと上手いねんで!」と明るく語る。結果は…?

弓(ヨリ) 30mダブルラウンド 男子CP2(障害区分01)部門/見事!銀メダル!!



大東市在住のクッシーさんは、約9年前のバケツ事故で大けがを負った。10数時間ものバケツ後ICUに2週間。頭は固定され腕も動かない。一生身体が動かないと告げられた。不思議なことにショックはあまり受けなかった。会社を辞め迷惑をかけるかと涙したが、自分のことでは一度も下を向かなかった。なぜか性格は、かえって明るくなった。同室の自殺願望の若者に「俺の姿見てみ」と励まし、アキと呼ばれたほどだ。

妻をはじめ家族には一番迷惑をかけた。専門の病院やリハビリ施設を必死に探してくれた。大分・別府に最良の施設を見つけ、そこに行ける状態(車いすに一日座る等)を目標に、何人もの医師・病院のご協力も得ながらリハビリに励んだ。その間、車いすがツラの方や、同じ障がいのある方々から、気持ちのあり方や、自立生活のアドバイスをいただいた。

7年程前、やっと別府の施設に行き、そこでアーチェリーと出会った。ゴム引きや重りで筋トレをし、毎週150本撃つ猛練習の積み重ねが、銀メダルの快拳につながった。事故までは特に運動をしてこなかったので、これも障がいをき

っかけに大きく変わったことだ。

クッシーさんは語る。「アーチェリーが無かったら、自分には何も無い。プライドを捨て切って、一人でできないことは頼む。人との繋がりや、色々助けてもらえるのも、この身体になったから。」「お世話になった方々、病院や施設、事業所さん、そして、誰よりも家族に、少しでも恩返しをしたい」と。

ある日突然、重度障がい者となった…。相当な苦悩を想像していた私に、クッシーさんは一度も後ろ向きの言葉を使わなかった。冗談交じりに明るく語るその姿から、今ある状態を悲観しないこと

や、人に頼る・繋がる力の素晴らしさを学んだ。様々な苦悩・困難もあったはずなのに、障がい者になったことを、また別の人生のスタートに変えるほどの強さを感じた。次の目標、茨城国体に向けて、クッシーさんの新たな挑戦が始まる!これからも繋がり、応援し続けたい。(レポーター・あき)



い い とないの生き生きサン

今回は
2本立て!

架け橋とまでは言わないけど・・・

今回は、中国福建省から日本語の勉強のため来日し、その後も日本でお仕事をしておられる、ゆるぎな あすか（玊 嘉昱）さんにお話しを伺ってきました。「玊」という字は日本では使われない字のようで、「ゆるぎない」という意味であることから、「ゆるぎな」という読みを当て、名乗っておられるそうです。

ことば・コミュニケーションについて

もともと日本のアニメが好きだったゆるぎなさんは、実際に日本で日本語の勉強がしたいと大阪産業大学にやってきました（留学生へのサポートが充実していることなどから大阪産業大学を選んだそうです）。しかし、勉強する日本語は「標準語」のため、「方言」に苦労されたそうで、地方から出てきたレポーターの私自身、地元と大阪との言葉の違いに戸惑っていたことを思い出しました。また、「敬語」も中国語にはない文化だそうで、特に尊敬語と謙譲語が難しいとのこと。相手に敬意を払いたいののに使い間違えて失礼な言葉遣いをしてしまうなど悩んでおられます。日本人ですら時に悩む方言や敬語の問題、外国から来られた方からすると想像より高い壁なのかも知れません。

またあるとき、入社したときの服装を見て「かわいいスカートですね」と言われたそうです。実は「会社に派手な格好で来るなんて」という嫌味だったのですが、それをゆるぎなさんは陰口で知ってしまいます。中国ならストレートに注意されることが多いため、それが嫌味だと気づくことができずしてました。しかし、そんな日本の遠まわしな表現をゆるぎなさんは「他人のことを考えての言動。中国語では忖度（そんたく）がなかなかないので・・・」とポジティブに捉えていらっしやいました。このように、異なる文化の良いところをお互いが認め合えるコミュニケーションがもっと取れたらステキだな、とお話しを聞いて感じました。

誤解や差別的な体験について

テレビの報道で「中国人のマナーが悪い」などと言われると恥ずかしいような気持ちになるそうです。たくさん中国人が日本に来ているなかで、一部の悪い例だけが報道に取り上げられ、それが中国人のイメージになってしまっている。また、来日してすぐの部屋探しで「外国人お断り」の部屋がたくさんあり、先に日本にきていた別の留学生の方に助けられて部屋を決めていったという経験や、音楽を聞きながら歩いていて、曲がり角で人とぶつかりかけたときに「お前中国人やろ、国へ帰れ」のような心無い言葉を投げかけられたこともあるそうです。ゆるぎなさんは「そんな中国人ばかりじゃないことを知ってほしい。まずわたしがその姿勢を見せていけるようになりたい」と意気込んでおられました。

日本のことや今後について

そんなゆるぎなさんから見ても「日本の方はマナーを守って丁寧な人が多い。生活上のトラブルも少ない。食や化粧品も安心ですね」とのこと。「もっと日本で日本語と中国語を使う仕事がしたい。架け橋とまでは言わないけど・・・」と照れ笑いを浮かべながら語ってくださいました。



▲ ゆるぎなさんおすすめの中国料理「火鍋」

（レポーター 卓ちゃん）

役員・常設委員交流フィールドワーク (2018年11月16日)

奈良市立北人権文化センター

じゅうはちけんこ

北山十八間戸等を訪問しました。

奈良・東大寺の北の丘陵を北山といいます。ここに、らい病（ハンセン病を含む全ての皮膚病）日本最古の「病院」として、十八間戸がありました。古来北山は、奈良の都に災厄が及ばないための国境守備の役割を果たしてきました。災厄には病も含まれ、病人が都に入らないよう、また、都の人が病気になれば北山宿に入り治療をしました。ここで薬や猿楽（祈禱から）も発展しました。

ハンセン病は、最近まで不治の病で、感染するという誤った認識から隔離され差別されてきました。この十八間戸も隔離施設だと思って訪問したのですが、そもそも違っていました。当時、殺生をすれば来世はらい病という信仰がありました。殺生なしに生きられない自分たちの業（ごう）を、らい病患者は代わりに背負ってくれる、感謝・仏の化身としてあがめられました。付近の住民のみならず、旅人や商人も寄進し、皆が進んで支えた施設だったのです。ここで一生を終える者は、人々の幸せと世の平安を祈りつつ東大寺を拝みながら亡くなっていきました。



案内をして下さった松田さんは、神人（じにん）という神の使いの子孫です。奈良時代、河内の国・枚岡神社から二柱のご神体が春日大社にお移りになる際に、空間を清めながら先導し、そのまま興福寺の御用役人として北山に移り住みました。神人は神の目・耳であり、人ではありませんでした。人々の訴えを神に届け、同時に皆を監視する存在で、自然に人々とは垣根ができました。食事も殺生であるため、特に神人の前で飲食することを避けました。

そのうえ時の権力者は、神鹿（しんろく：春日大社の鹿）を殺めた者の死刑執行を神人に務めさせ、また、鹿

よけに飼った犬や狼の足の臄を切らせました。農民は神人を敵視し、襲いました。そうして、畏怖畏敬の差別から、恨み見下げる差別へと変化していき、被差別部落となったのです。

しかし、飢饉のときには神人が人々の訴えを聴き、興福寺から施米（せまい）を出させました。そして、人々の代わりに神人が首謀者として罰せられました。松田さんは、「皆がつながると、権力者にとっては不都合。人々を切り離すために部落差別を利用してきた。それなら、つながることで差別を無くすことができる。」「歴史を権力者の作った正史だけでなく、多方向から見る必要がある。庶民の側からの歴史を知ることが大事」と語られました。

ハンセン病も、部落差別も、真実を知り、つながることで差別を無くすことができるのです。そして、日本の文化の根っこに、神仏や、その背景にある自然への畏敬の念があり、病や分断をも乗り越える人々の強さ・優しさがあることを学んだフィールドワークでした。

(レポーター・あき)

気づきからつながるあなたとわたし ～ 2018 市民じんけん講座 ～ 各テーマとご感想から

① 10/17「子ども支援から見える部落問題」

特定非営利活動法人あわじ寺子屋 理事長 大賀 喜子 さん

感想 「今なおおこる差別に対して、支援されているエピソードが具体的でとてもわかりやすく、教育、学びの大切さを改めて感じました。居場所をつくる、いつでも頼れる、相談できると伝えることは大切だと思いました。」

② 10/24「性的マイノリティの実情と人権 ～障害を乗り越えて新寺建立へ～」

高野山大学密教文化研究所 研究員 柴谷 宗叔 さん

感想 「皆同じ人間なので皆が幸せに暮らせる社会になればいいなと今回のお話をきかせて頂いて強く思いました。性別を問わず差別のない国になり差別をしないのが当たり前の中になることを願っています。」

③ 10/31「高次脳機能障害とともに ～今を生きる～」

口笛奏者とサポーター 白井 伊三雄 さん・白井 京子 さん

感想 「京子さんが最後に言われてました。『今に感謝して前向きに生きている』と。無いものを求めず、今あるものに感謝すれば、明るく楽しくなるのでは？と思いました。白井さんも夢と目標があるのでもっともっとよくなれると。」

④ 11/7「多文化・多民族共生への道のり ～今、気づき、考えてほしいこと～」

NPO 法人多民族共生人権教育センター 理事長 朴 洋幸(パキ ヲウキ) さん

感想 「改めて外国人問題についても考える機会となりました。今の日本において外国人との共生の重要性については増々深まっていくと思えました。今まで以上に外国籍の方との係わりが深まっていく中で一部マスコミによるイメージに振りまわされないようにしたいと思えます。」

⑤ 11/14「JR 京橋駅エレベーター訴訟の経緯と、関西におけるアクセスについて」

アクセス関西 運営委員 山名 勝 さん

感想 「『思いやり』や『おもてなし』という言葉になんとか違和感を感じていましたが、今回の講座でバリアフリーは基本的な人権、当りまえのこと、社会マナーなどお聞きし、納得しました。人に言われてではなく、自分にとって正しいことをもっと考える場や機会を設けないといけないと思えました。」

2019年

人権啓発指導者養成講座「気づき」「学び」を「まちづくり」へ

講師 大阪市立大学非常勤講師、立命館大学生存学研究センター客員研究員 松波 めぐみ さん

① 1/23「基礎からしっかり学ぶ『障害者差別解消法』」

② 1/30「相模原事件から考える『共生社会』」

③ 2/6「バニラエア事件から考える、今日の障害者差別」

「各回とも立場によって考えがちがい、いろんな意見がきけて勉強になりました」とのご感想をいただきました。

つながる めくもい

わが町大東に「あったか光線」があふれる年でした

2/10

2018ヒューマンコンサート
「沖縄からの風に吹かれて」～琉球伝統文化にふれる～



恒例のヒューマンコンサートが行われました。「沖縄かりゆし会」によるエイサーの太鼓、伊佐美奈子さんの琉球舞踊、そして長嶺ルーシーさんと Nao（なお）さんの歌声と続き、場内のテンションはどんどんヒートアップしていきました。この日の主役のルーシーさんは、沖縄からのペルー移民三世の方です。沖縄を拠点に全国で活躍されています。島唄が歌われると、客席からも口笛や手拍子が起こり、大盛り上がりの中でコンサートを終わりました。

5/1～4

人権パネル展



野崎観音会館で開催されました。今年のテーマは『こどもみんなが主人公～こどもの人権を考える～』でした。館内では、「子どもの権利条約」を丁寧にご覧になっている方もおられました。会館前では子ども虐待防止啓発グッズなどを販売し、人権意識の高揚を図りました。

5/11

憲法週間記念のついで
「悠以トーク&コンサート」



総合文化センター大ホールで行われました。悠以（ゆい）さんは29歳の女性です。その悠以さんが身体は男性として生まれてきたこと、しかし、心は女性であることによる悩みや葛藤が紹介されました。また、悠以さんの他にも身体は女性で心は男性の中尾勇守（ゆうま）さんや大東市在住のレスピアンの井上鈴佳さんのトークなどもあり、多くのことを気づかされる内容でした。最後は悠以さんの男声・女声を使い分けた歌声によるコンサートで終わりました。

～2018年を振り返って～

6/22

市民・会員交流フィールドワーク 「鳴門市ドイツ村」「鳴門市賀川豊彦記念館」を訪ねて

徳島県鳴門市を訪れました。まず「ドイツ館」です。第一次世界大戦時、捕虜が約千人収容されていた跡地にあります。当時の松江所長がその捕虜に人権を尊重した扱いをしたということで有名です。「賀川豊彦記念館」とは、労働運動、普通選挙権運動、農民運動と活動し、第二次世界大戦後には、世界連邦国家建設運動、核廃絶、憲法擁護運動を行い、ノーベル平和賞候補に四度も推薦された、賀川豊彦を記念して建てられたものです。人権や友愛、平和について学んだ一日となりました。



9/29

非核平和事業 「親子で平和を考えるつどい」

市民会館キラリエホールで開催されました。8月1日の平和バスツアー「ピースおおさか」・ヒロシマ記者事業の感想文の発表、大東市原爆被害者の会の上田会長の体験談、アニメ映画「クロがいた夏」の上映が行われました。また、平和パネル展「ヒロシマ・ナガサキの実相」として、多くの資料が展示されました。戦争の悲惨さ、平和の大切さを考える絶好の機会となりました。



7/4～3/6

地域集会

2018年度は、日本に住む外国人との共生がテーマでした。ビデオが3部構成になっており、日本人と外国人との①近隣同士のトラブル、②会社で働く者同士のトラブル、③学生がヘイトスピーチに悩む、などが事例として紹介されました。その後、人権擁護委員さんが座長となり、市内41か所の地域で感想やご意見等の交流が行われていました。毎年、身近な話題で、人権について考える良い機会となっています。

人権啓発ネットワーク大東とは

近年、子ども・障がい者・高齢者等への虐待や特定の民族に対する憎悪表現など多くの人権問題がニュース等で取り上げられています。社会環境が大きく変化し、まだまだ「人権」が尊重されていない状況が現在の日本には存在しています。

大東市では、人権尊重のまちづくりをめざし、市民による市民のための自主的な組織として「人権啓発ネットワーク大東」が2013年4月1日に設立しました。

目的

一人ひとりが生まれながらにもっている基本的人権が尊重される社会の実現に向けて歩み続けるため、自らの人権意識を高め、お互いの人権を認め合うとともに、わたしたち市民が行政と協力して、人権啓発活動を積極的にを行い、人権尊重のまちづくりをめざす。

活動内容

- ・自らの人権意識を高めるための研修会などへの参加・参画。
- ・人権尊重の理念を広く市民に広げるための啓発・広報活動など。



☆入会案内

「このまちをよりよくしたい。そのために何かをしたい。でも何をしたいかわからない…」というあなた！お互いの人権を認め合い、地域の発展、人権尊重のまちづくり、そんな社会の実現に向けて、一緒に活動しませんか？

※詳しくは大東市ホームページ (<http://www.city.daito.lg.jp/>) に掲載していますのでご覧ください。

※「人権啓発ネットワーク大東」の Facebook も開設！

様々な活動の報告など、情報発信していますので、こちらもぜひご覧ください

(<https://www.facebook.com/>

人権啓発ネットワーク大東-1987405014833313/)



入会等のお申し込み・お問い合わせ

人権啓発ネットワーク大東事務局（大東市人権室内）

〒574-8555

大東市谷川1丁目1番1号

T E L : 072-870-0441

F A X : 072-872-2268

Eメール : j_keihatsu@city.daito.lg.jp

